

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703105
法人名	有限会社 健康サポートセンター
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区浅川1丁目25-5 (電話) 093-695-1315

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(平成20年2月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	9人, 非常勤 10人, 常勤換算 4.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)29,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	93,000円	有りの場合 償却の有無	3年間で償却	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,350円				

(4) 利用者の概要(2月13日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	77歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青山中央外科病院 / 石橋内科クリニック / 河本整形外科医院 / 堤病院 / 益本医院など
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(有)健康サポートセンターは、グループホームひだまりの運営の他に有料老人ホーム・訪問介護・通所介護・居宅介護支援・住宅改修など多様な高齢者ケアの事業を展開している。グループホームひだまりは、地域社会のつながりの中で、「自分らしく安心して暮らしていただける家」を基本理念として掲げ運営を行っている。入居者の身体的・精神的状況を的確に把握し、状態変化の把握を常に察知し、状況に応じた的確なケアができるように個別支援に力を注いでいる。特に入居者の心身の変化や異常発生時に備えて、職員のスキルアップに努め、入居者が安心して、楽しく暮らせる雰囲気づくりを行っている。建物は玄関や廊下・共用部分が広く、ゆったりとした造りとなっている。共用部分は和室と洋室からなり、和室には雛人形が飾られ、家庭的な雰囲気が感じられる。建物への採光の取り入れ方や明るさに工夫があり、居心地の良い空間となっている。管理者と職員が一体となって日々のケアに努めており、前向きな姿勢と対応がグループホームの明るい雰囲気を生みだしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘を受けた食事・入浴・薬の保管などについては、職員全員で話し合い改善に取り組んでいる。地域との連携は今後の取り組みとして課題となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義とねらいについて、職員全員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、地域包括支援センター・自治会長・家族などの参加により2ヶ月に1回開催している。会議内容は行事や入居者の様子・生活などを報告し、意見やアドバイスをいただき、サービスの質の向上に努めている。家族にとっては、入居者の状態に対する不安など率直な意見や希望を言っていたりいただける機会となっており、職員にはミーティングの際に伝え、運営に活かすように取り組んでいる。今後は、更に民生委員や市民センターの館長など多様な地域の方々への参加を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会時に、困った事や要望などを聞きとり、連絡ノートで申し送りを行い、職員間での情報の共有化を図っている。また、月に2回、介護相談員の受け入れも行き、入居者の相談などを受けとめている。運営推進会議は、家族に呼びかけ、出席していただけるように取り組んでおり、家族が率直な意見や希望、要望を言っていたりいただける機会としてとらえ、運営推進会議での家族の意向の把握を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	民生委員や福祉協力員の方が見学に訪れたり、グループホームのクリスマス会に地域のボランティアの方が歌謡曲やフラダンスを披露して下さったりと地域との交流・ふれあいの機会を作っている。現在は、地域行事への参加を目標に、自治会長からの提案である、町内会の加入・区会長会議への参加・民生委員の集会への参加などを検討し、地域との交流を図っていきたく考えている。今後は、多様な高齢者ケアの事業展開を図る福祉拠点として、地域に向けて認知症ケアの情報発信など積極的に取り組まれることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は「自分らしく安心して暮らしていただける家」を掲げ、地域密着型サービスとして福祉拠点を目指すことを運営方針に挙げている。入居者が地域社会とのつながりの中で、生き活きと過ごすことができるように支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示している。朝礼では理念を唱和し、日々の業務の中で、理念が共有できているかを確認している。毎月1回の勉強会やミーティング・カンファレンスでは、理念について話し合い意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員や福祉協力員の方が見学に訪れたり、グループホームのクリスマス会に地域のボランティアの方が歌謡曲やフラダンスを披露して下さったりと地域との交流・ふれあいの機会を作っている。現在は、地域行事への参加を目標に、自治会長からの提案である、町内会の加入・区会長会議への参加・民生委員の集会への参加などを検討し、地域との交流を図っていきたく考えている。更なる地域連携を期待したい。		グループホームの位置が町内会の境目に位置し、連携が取りにくい状況にあるが、今後は、多様な高齢者ケアの事業展開を図る福祉拠点として、地域に向けて認知症ケアの情報発信など積極的に取り組まれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘を受けた食事・入浴・薬の保管などについては、職員全員で話し合い改善に取り組んでいる。地域との連携は今後の取り組みとして課題となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、行事や入居者の様子・生活などを報告し、意見やアドバイスをいただき、サービスの質の向上に努めている。家族にとっては、入居者の状態に対する不安など率直な意見や希望を言ってもらえる機会となっており、職員にはミーティングの際に伝え、運営に活かすように取り組んでいる。今後は、更に民生委員や市民センターの職員など多様な地域の方々の参加を期待したい。		運営推進会議において、民生委員・市民センターの館長など多様な地域住民の参加を募り、地域との連携を高めることが求められる。地域の情報やグループホームの情報交換を積極的に行い、運営推進委員の協力のもとで地域との連携を検討していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の状況把握のため、介護保険課やケースワーカーと密に連携を図っている。問題がある場合には、連絡をしたり、相談したり、情報交換を積極的に行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	玄関にいつでも、見ていただける様に権利擁護のパンフレットをおいている。また、成年後見人制度など入居者が活用できるように説明や紹介をしている。職員は外部研修や内部研修に参加し研鑽に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は担当制で入居者との関係づくりを行っている。面会に来られる家族が多く、面会時には担当職員が必ず家族と話す事を大切にしている。金銭管理は預かり帳を確認していただきサインをしてもらっている。体調が変化した時は、その都度こまめに連絡をしている。3ヶ月に1回担当職員が入居者の状況を手紙で報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望などを担当職員が聞き取り、連絡ノートで申し送りを行い、情報の共有化を図っている。運営推進会議には、家族の参加を呼びかけ、出席していただけるように取り組んでおり、家族が率直な意見や希望・要望を言っていたりいただける機会としてとらえ、運営推進会議での家族の意向の把握などを行っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は担当制とし、入居者はなじみの関係の職員から支援を受けられるようにしている。また、2ユニットにリーダーがおり、サポートやカバーできる体制を構築している。職員は、夜間や緊急時に備えて全フロアの入居者の状況を把握してもらうために時々異動を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	男女を問わず、年齢制限もなく幅広く採用している。資格取得など、職員の目標を把握し、目標が達成できるように支援している。管理者は、職員の不安を解消し、ストレスがたまらないように、そして、ケアの思いこみに陥らないように面談を行い、職員のメンタル面のサポートを行い、働きやすい職場づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人グループの社内研修として、「身体拘束について」の研修を行い、人権擁護の観点から取り組んでいる。外部研修の参加をすすめ、希望する職員については勤務として研修に参加できるように支援している。また、理念にそって内部研修も行い、入居者の人格・プライバシーを尊重・配慮したケアが実践できるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	社内の年間研修計画に基づき受講している。職員のスキルアップのために、自己の目標シートがあり、職員一人ひとりが記入し、自分の目標を確認しながら自己研鑽に取り組むように支援している。また、内部においては、管理者の看護師としての経験・実績を活かし、心身の変化や異常発生時の対応など疾病に関するスキルアップを図る研修にも努めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	研修会の参加などの機会をとらえ、情報交換を行うなど、他のグループホームとの交流の機会を持つように取り組んでいる。今後も同業者と交流などを積極的に行い、サービスの質の向上に努めていきたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、入居者・家族及び関係者とサービス担当者会議を開き情報を得ている。また、入居者・家族が見学に来られて、入居体験により親しんでいただき、納得の上で入居していただけるよう取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は入居者へ尊敬の念を持って接し、入居者の意向にそった日々の役割を一緒に楽しみながら支援している。日常的な買い物・おやつづくり・野菜づくり・掃除など、その日の意向や体調に合った過ごし方をサポートしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を導入し、個別ケアの実践に取り組んでいる。入居者の会話や行動から、入居者のシグナルを見逃さないよう心がけ、入居者の全体像の把握に努めている。日々の入居者の思いや職員の気づきなどメモを取るなど、更に掘り下げていく試みを期待したい。		日々の入居者の思いや訴え・家族の意向など日々のメモなど記録を取り、客観的評価を行い、入居者の喜びや楽しみを更に深く掘り下げることを期待される。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	センター方式を導入し、入居者や家族の意向を反映した具体的な介護計画を作成しているが、入居者の生活歴などを分析し、生きがいや喜びなどが十分に把握することが望まれる。		センター方式を活かして、入居者の成育歴や生活歴の情報を分析し、入居者の生きがいや喜びを介護計画に反映していくことが期待される。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月1回、モニタリングを実施している。また、入居者の状況や変化がある場合は計画を見直し、家族にも了解を得ている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	法人では、多彩な高齢者ケア事業を展開しており、入居者の趣味や嗜好を考慮し、法人内の行事やイベントに参加できるように支援している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者や家族の希望にそって、かかりつけ医の受診ができるように支援している。かかりつけ医とは連携を密にし、日常の様子・健康状態・睡眠・食事などを報告し、適切な医療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	職員全員で重症化に対応できるよう学習会を行っている。今後は、重度化や終末期に向けて、ケアの対応指針・同意書を作成する予定がある。終末期のケアに関して、主治医・家族・関係者を含めて話し合い、体制づくりをすすめていきたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員採用時に個人情報保護に関する誓約書を記入するようになっている。入居者の記録は事務所の棚の定位置に保管・管理している。声かけは、入居者の誇りやプライバシーに十分配慮した対応を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	日々のスケジュールは、リハビリ以外は決めていない。入居者の気持ちを尊重し、自由で自主的な暮らしを楽しんでいただくように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者が主体となって職員と共に食事づくりを行い、職員も一緒に食事を楽しく食べている。また、入居者の好みを聞きながら、月2回、ぜんざい・クッキー作りなど入居者の希望を取り入れて、おやつ作りを楽しんでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は週3回を基本に、ゆっくり入浴していただけるように時間設定を工夫している。夜間の入浴も入居者の希望に応じて支援している。入浴の安全面と羞恥心の配慮にも心がけている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	料理の準備・テーブル拭き・掃除・野菜づくりなど、入居者が得意とすることをお願いして、感謝の言葉を伝え、役割を果たしていただいている。入居者には、強制的ではなく、自由に関わっていただくように支援している。また、誕生日は家族と共に祝っていただいたり、デイサービスのカラオケを借りて楽しんでいただくなど、日々の楽しみごとを支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望により、天候の良い日は買い物など出かけている。日常的な外出は個別に対応しており、毎日外出する入居者もおられる。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は玄関の施錠はせず自由に出入りができるようにしている。職員は入居者を常に見守り、安全面に配慮している。安全の確保として、内ドアにはベル、玄関にはセンサーを設置している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	法人内に防災・防犯委員会があり、防火訓練報告書に実施の記録がある。当日の参加者・反省点・対策がきちんと報告されている。夜間を想定した訓練も実施している。しかしながら、消防訓練は職員のみで実施しており、今後は、地域の協力・参加による消防訓練の実施が求められる。		運営推進会議や地域の会合などで、消防訓練への地域住民の協力・参加を求めるなど、地域への働きかけが必要である。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食材は専門業者に委託し、1日1500～1700カロリーを目安に業者の栄養士が献立を作成している。医師の指示により食事制限のある入居者については栄養士に相談し対応している。水分摂取量は、トータル量をチェックし、水分摂取の少ない入居者は、少量の水分を回数多く取れるように支援している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間の横にくつろげる和室もあり、ゆったりとした造りとなっている。和室には雛人形が飾られ、出窓には観葉植物が置かれ、家庭的な雰囲気づくりの工夫がある。廊下も広く、車椅子利用にも充分対応できる広さを確保し、ベンチなどもあり、仲間同士でくつろげる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室が広いので、仏壇やテレビ・茶筆筒など自宅で使い慣れた生活用品や家具などを持参してもらい、入居者が居心地良く暮らせるように支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			